

2021年3月期第2四半期決算資料

＜補足説明資料＞ 運輸成績及び事業計画等



東京地下鉄株式会社
2020年11月5日

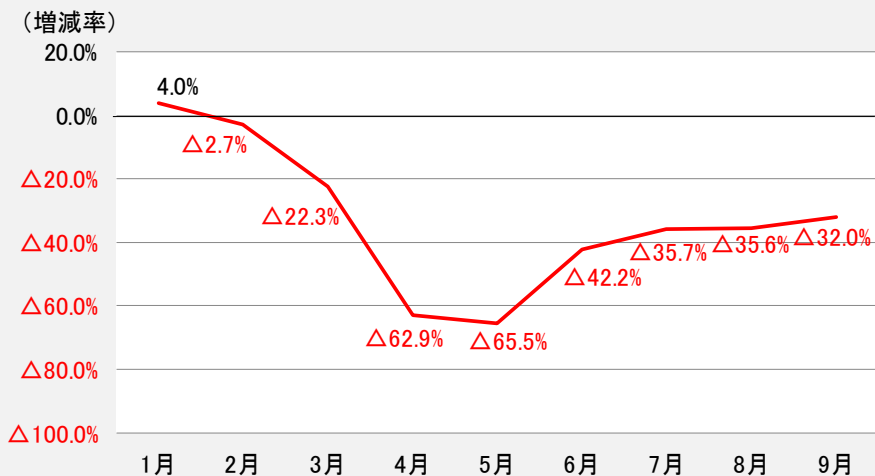
運輸成績 トピックス①

定期（平日）のご利用において、
新型コロナウイルス感染症による影響（月別）が見られました。

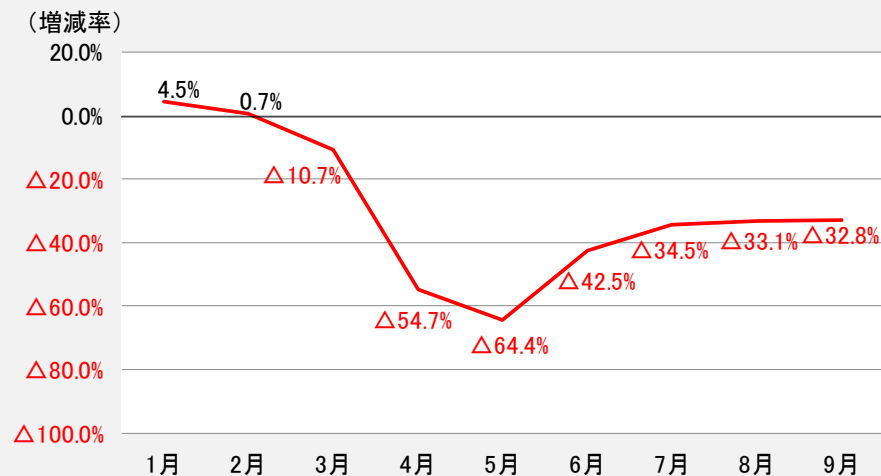
全線における自動改札機データ（定期／定期・定期外合計 月別）

- 平日の定期出場枚数につきましては、3月以降、対前年同月比で減少となり、緊急事態宣言のあった4月から5月において大幅に減少（最大 △64.4%）していましたが、6月以降は減少幅が縮小しております。

平日（定期・定期外合計） 出場



平日（定期） 出場



<凡例>

— 2020年 - 2019年 増減率 (%)

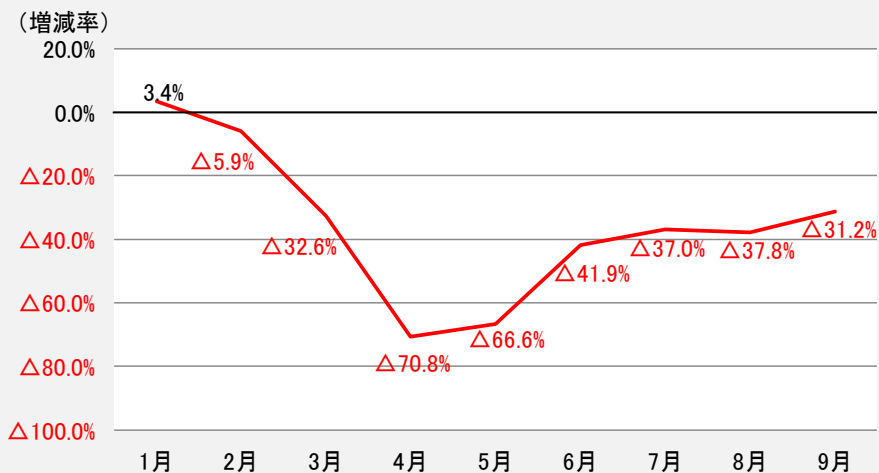
運輸成績 トピックス②

定期外（平日及び休日）のご利用において、
新型コロナウイルス感染症による影響（月別）が見られました。

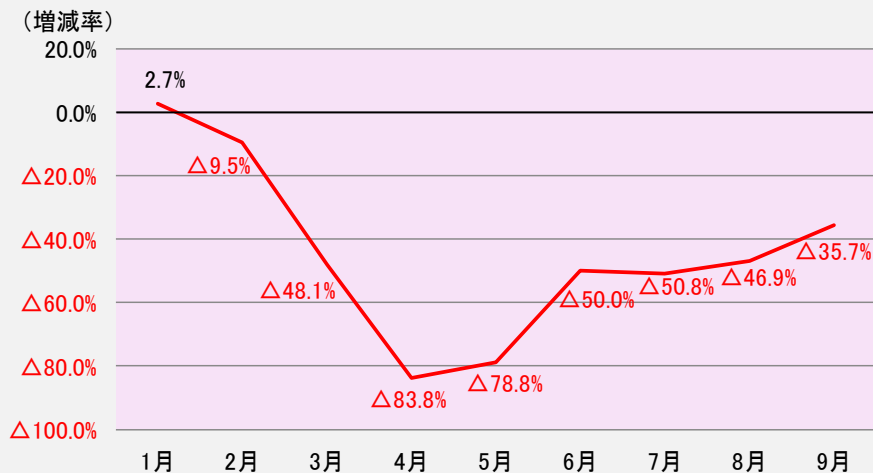
全線における自動改札機データ（定期外 月別）

- 平日及び休日の定期外出場枚数につきましては、2月以降、平日、休日ともに対前年同月比で減少となり、緊急事態宣言のあった4月から5月において大幅に減少（平日最大 $\Delta 70.8\%$ 、休日最大 $\Delta 83.8\%$ ）していましたが、6月以降は、平日、休日ともに回復傾向にあります。

平日（定期外） 出場



休日（定期外） 出場



<凡例>

— 2020年 - 2019年 増減率 (%)

運輸成績 トピックス③

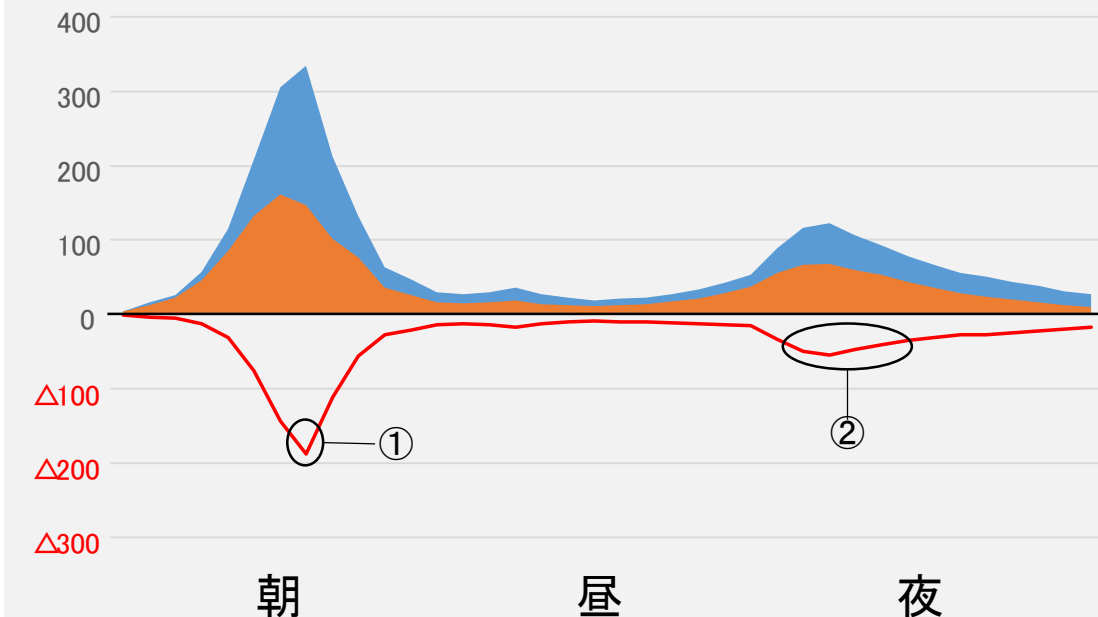
定期（平日）のご利用において、
新型コロナウイルス感染症による影響（時間帯別）が見られました。

全線における自動改札機データ（定期 時間帯別）

- 平日の時間帯別の定期出場枚数につきましては、朝夕の通勤時間帯（①、②）において特に減少がみられました。また、時間帯別占有率をみると、前年同期の朝のピーク時間（③）に比べ、今期においてはピーク時間（④）が早まっており、さらにそれ以前の時間帯の占有率についても前年同期より高い傾向にあることから、朝の通勤のピーク時間帯を避け、より早い時間にご利用されているものと推測されます。

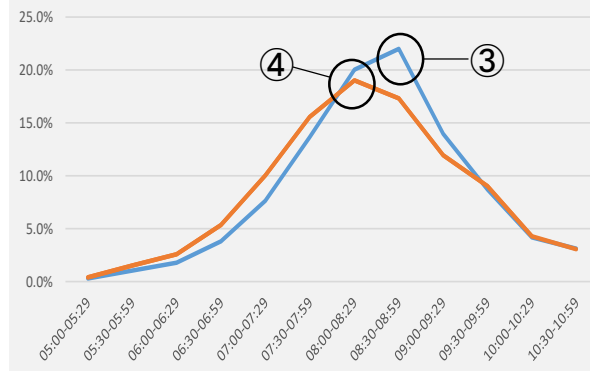
平日（定期） 出場

枚数(千枚/日)



定期出場枚数の時間帯別占有率(5:00~10:59)

占有率(%)



<凡例>
— 2019年度第2四半期(累計)
— 2020年度第2四半期(累計)

<凡例>
— 2019年度第2四半期(累計) 一日平均出場枚数(千枚/日)
— 2020年度第2四半期(累計) 一日平均出場枚数(千枚/日)
— 2020年度第2四半期(累計) - 2019年度第2四半期(累計)

※朝:始発~10:00 昼:10:00~17:00 夜:17:00~終車

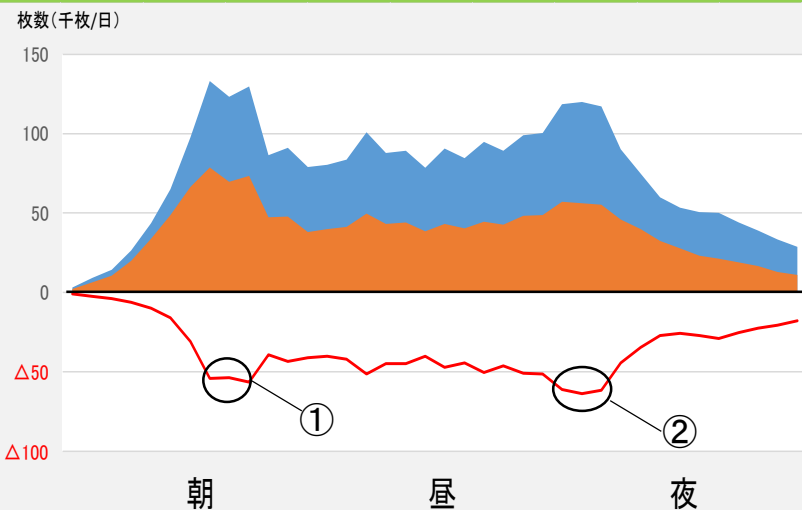
運輸成績 トピックス④

定期外（平日及び休日）のご利用において、
新型コロナウイルス感染症による影響（時間帯別）が見られました。

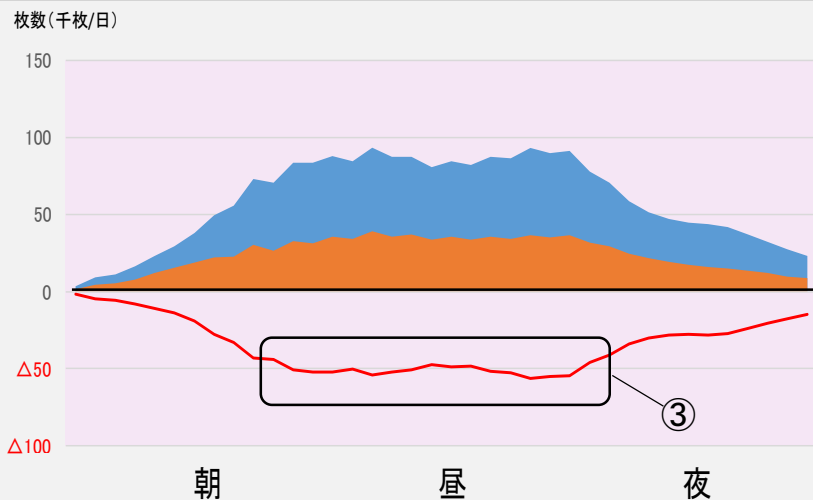
全線における自動改札機データ（定期外 時間帯別）

- 平日の時間帯別の定期外出場枚数につきましては、終日で減少していますが、朝夕の時間帯（①、②）において特に減少しており、朝夕の通勤でのご利用が減少しているものと推測されます。また、夕方の時間帯（②）においては、勤務後のプライベートでのご利用も減少しているものと推測されます。
- 休日の時間帯別の定期外出場枚数につきましては、昼の時間帯（③）を中心に満遍なく減少しており、感染防止のための出控えにより、プライベートでのご利用が減少しているものと推測されます。

平日（定期外） 出場



休日（定期外） 出場



<凡例>

- 2019年度第2四半期（累計） 一日平均出場枚数（千枚/日）
- 2020年度第2四半期（累計） 一日平均出場枚数（千枚/日）
- 2020年度第2四半期（累計） - 2019年度第2四半期（累計）

※朝：始発～10:00 昼：10:00～17:00 夜：17:00～終車

2020年度

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた当社の取組みについて

ウィズコロナ・ポストコロナにおいても、「選ばれる鉄道会社」を目指すべく、新たに設定した3つのキーワードに基づき、安心してご利用いただける交通機関であり続けるための施策を進めてきました。

◆新たに設定した3つのキーワード

安心な空間

パーソナライズド

デジタル

◆主な取組み

抗ウイルス・抗菌処置

お客様への安心の提供として、引き続きアルコールによる消毒作業を行うとともに、車両内及び駅構内への抗ウイルス・抗菌処置を実施しています。

- 車両内への処置・・・8月末完了
- 駅構内への処置・・・9月末から順次実施
(12月下旬完了予定)



▲抗ウイルス・抗菌処置



▲駅設備の消毒



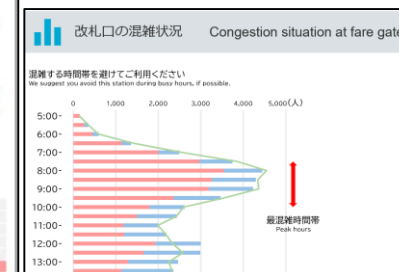
▲IFCへのビニール設置

混雑の見える化

「東京メトロmy!アプリ」(8月27日配信開始)により、車両内や改札口の混雑情報を提供し、お客様により安心して地下鉄をご利用いただけるように、取組みを実施しています。



▲アプリ画面



◀混雑情報提供画面のイメージ

2020年度

第2四半期までの主な取組みについて

自然災害対策

大規模浸水対策として駅出入口の改良等を引き続き実施しています。また、震災対策として高架橋柱の補強を推進しています。

【9月末時点】

駅出入口浸水対策 **46%**整備済

高架橋柱耐震補強 **99%**整備済



▲完全防水型出入口

駅ホームの安全性向上

お客様の転落事故や列車との接触事故防止のため、ホームドアの整備を実施しています。また、銀座線は6月29日渋谷駅での稼働により、全駅での設置が完了しました。

【9月末時点】

●全線での設置状況 **79%** (143駅/180駅)

●銀座線での設置状況 **100%**



▲銀座線渋谷駅ホームドア



▲日比谷線虎ノ門ヒルズ駅ホームドア

新型車両の導入

日比谷線において、新型車両の導入を完了しました。また、丸ノ内線において新型車両の導入を推進しています。

- 日比谷線（13000系） 4月27日全編成（44編成）導入完了
- 丸ノ内線（2000系） 2020年度は9月末までに**7編成**導入（現在52編成中26編成導入完了）

（今後の予定）

有楽町線・副都心線及び半蔵門線において
新型車両を順次導入予定。

▼有楽町線・副都心線（17000系）車両



▼半蔵門線（18000系）車両



▲丸ノ内線（2000系）車両

2020年度

第2四半期までの主な取組みについて

旅客サービス

■ **バリアフリー設備整備**

1ルート整備等を目的として、エレベーター等の設置を進めています。

【9月末時点】

エレベーター1ルート整備率
9月末までに供用を開始した駅の例

96%

虎ノ門ヒルズ駅(6月6日)
未広町駅 (6月13日)
大手町駅 (7月25日) 等

■ **虎ノ門ヒルズ駅開業**

日比谷線として56年ぶりの新駅として、虎ノ門ヒルズ駅を6月6日に開業しました。

■ **THライナー運行開始**

東武線・日比谷線相互直通列車において、6月6日から、有料座席指定制列車「THライナー」の運行を開始しました。



▲THライナー

関連事業

お客様のニーズや、周辺店舗・街のイメージに合わせた店舗展開による更なる快適な駅空間を目指し、有楽町駅構内に「有楽町メトロピア」（カフェ）を7月1日に開業しました。

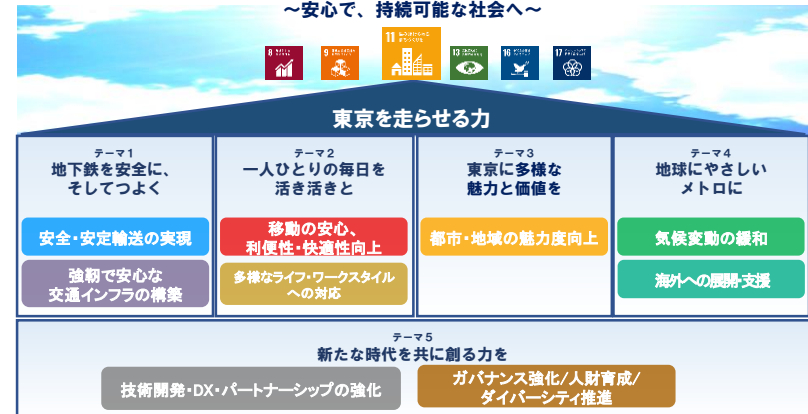


その他

■ **サステナビリティ重要課題（マテリアリティ）の特定**
「安心で、持続可能な社会」の実現に向けて、東京メトログループが特に取り組むべき9つのサステナビリティ重要課題（マテリアリティ）を特定しました。

東京メトログループのサステナビリティ重要課題(マテリアリティ)

～安心で、持続可能な社会へ～



2020年度

ポストコロナを見据えた今後の取組みについて

ゆとりある駅空間の整備

駅直結のエレベーターやエスカレーター、さらには地下空間と一体となった建物の整備など、駅・まち一体の調和のとれたゆとりある空間を整備します。

ピーク平準化

オフピーク時間帯におけるご利用の魅力を高めるため、メトロポイントクラブを活用したオフピークプロジェクトを推進します。

関連事業の推進

鉄道事業とも連携しながら、駅ナカ・不動産賃貸・広告等の関連事業の施策を推進し、東京メトログループ全体における収益力の向上に取り組みます。

MaaSの推進

「東京メトロmy!アプリ」による多様なモビリティやサービスとの連携を通じ、安心して快適な移動・ビジネス生活を提供し、お客様一人ひとりの“新たな日常”を将来にわたってサポートします。

DXの活用

自動運転の検討や、ドローンを活用したトンネル検査、故障予兆検知システムによる車両管理等、DXを活用した業務革新を推進します。

▼日比谷線虎ノ門ヒルズ駅（※完成イメージ）



▲豊洲駅オフピークプロジェクト



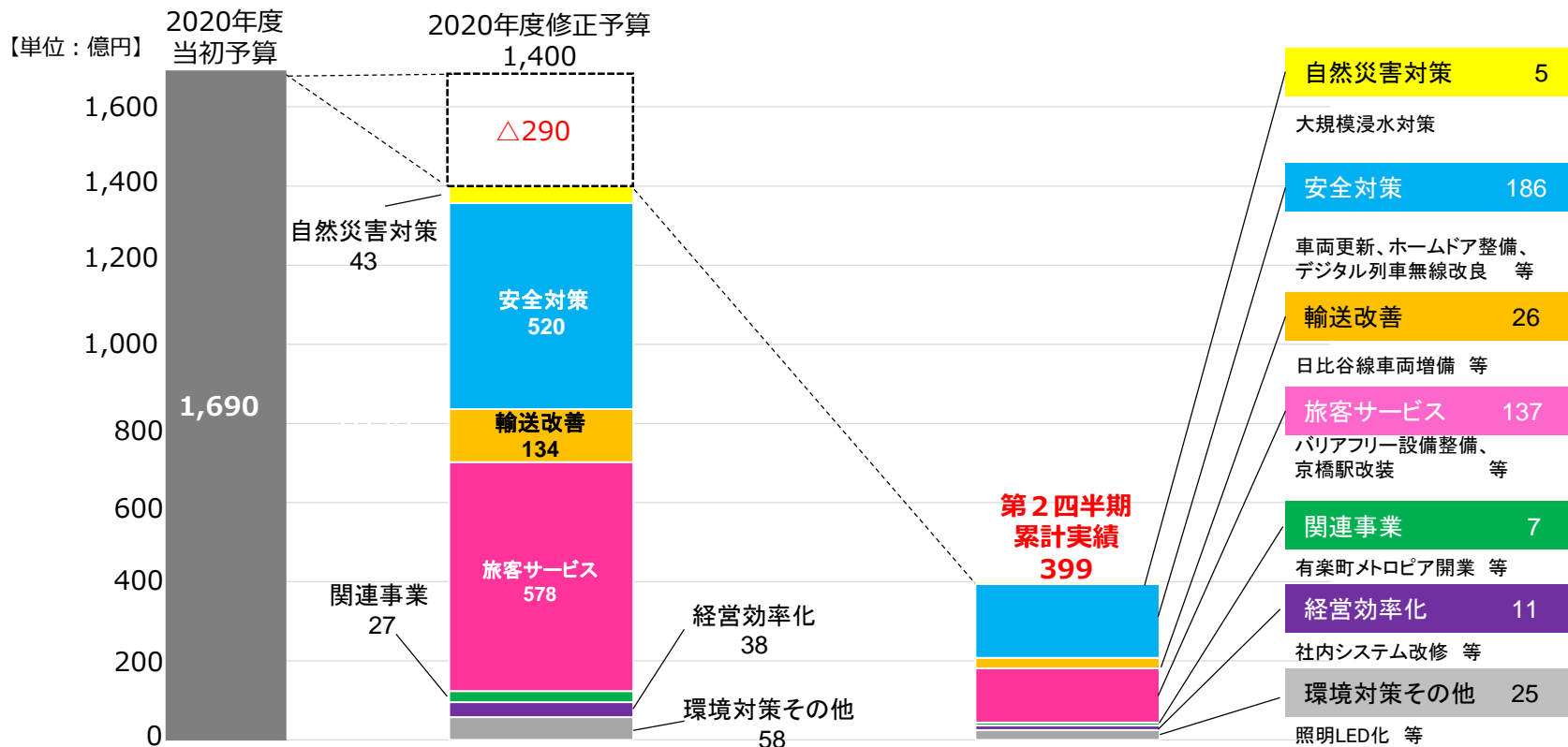
▲東京メトロmy!アプリと協業企業

ドローンを活用したトンネル検査▲

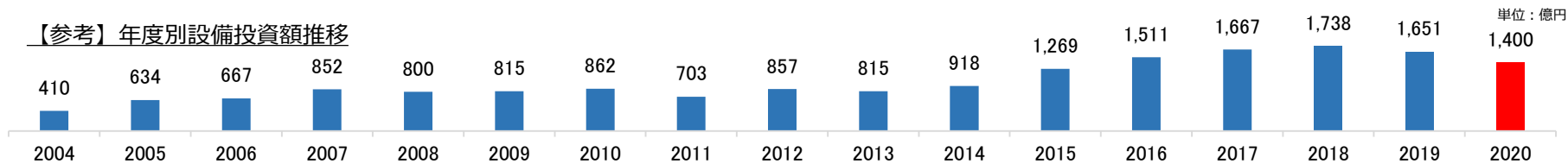
2020年度 設備投資実績

第2四半期までの設備投資実績について

■ 2020年度第2四半期においては、安全対策や旅客サービスを中心に累計399億円の設備投資を実施しました。



【参考】年度別設備投資額推移



※グループ子会社による維持更新等の設備投資を除く

東京メトロは東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会オフィシャルパートナー（旅客鉄道輸送サービス）です。